

軽井沢の追分宿、いまや文化磁場《油や》

長野県軽井沢町の最西端で隣の御代田町との境に位置しているのが、旧中山道の宿場町「追分」である。その名は、かつての中山道と北国街道との合流と分岐の地であるが、この借宿から南へ和らぎを知らせ、暮らして宿泊施設で、1階はカフェと展示室になっている。かつての油屋(美室)は江戸時代からの建物は、昭和12年に焼失、翌年に場所を隣地に移転して再建された。間取りを生かしてプロジェクトが行われた。1階部分は「油や回廊」と名づけ、入場した観光客が廊下で巡ること

となった。なるほど上品さが加わった感じがする。それはちょうど10年前からの「油やプロジェクト」で、歴史的資産の「油屋」を1階にはギャラリーもあるが、作業はGWからの半年だけである。屋内の1階での回廊で行われる映画イベント(コンサート、演劇、映画など)やアート作品展示のほか、屋外のグリーンでも古本市やバザーが行われるので、筆者も2、3度訪ねたことがある。近くには、堀田辰雄記念館や古書館もある。さらに古物店や追分宿郷土館もあり確かに磁力が強い。旧軽井沢とは違う趣の観光や滞在ができる。

1950年山形生まれ。東京都立大卒業。元千葉大学院工学研究科准教授(金属疲労専攻)。金属疲労の研究のほか、他分野のテーマの研究開発に努めるとともに日本各地の地域おこし活動に従事する。ローカル鉄道と地元の酒蔵のコラボで地域再生を図る地酒「鐵の道」の製造・販売を企画、すでに10件を超える銘柄を送り出している。一般社団法人「洗楓座」代表。全国ふるさと大使連絡会議「理事

地域の支援受ける「文化磁場」活動

この辺り10kmの範囲には「追分宿」の「浅間三宿」があった。軽井沢宿は碓氷峠という難所があり、大名や公家専用の本陣のほか脇本陣が4軒もあったという。沓掛宿は本陣のほか脇本陣が3軒あったという。ここも草津温泉に向かう分岐路があったが、追分とは呼ばれない。追分宿は本陣と2軒の脇本陣があったという。今回紹介したい「文化磁場油や」がある。以前は、「油屋」の名称であったが、観光の街おこし活動の一環で「油や」

となった。なるほど上品さが加わった感じがする。それはちょうど10年前からの「油やプロジェクト」で、歴史的資産の「油屋」を1階にはギャラリーもあるが、作業はGWからの半年だけである。屋内の1階での回廊で行われる映画イベント(コンサート、演劇、映画など)やアート作品展示のほか、屋外のグリーンでも古本市やバザーが行われるので、筆者も2、3度訪ねたことがある。近くには、堀田辰雄記念館や古書館もある。さらに古物店や追分宿郷土館もあり確かに磁力が強い。旧軽井沢とは違う趣の観光や滞在ができる。

地元力発見!

32

佐藤建吉 「洗楓座」代表

「油や」の名称であったが、観光の街おこし活動の一環で「油や」



文化磁場<油や>



アプローチとギャラリー外観と庭(一部)



「油や回廊」(本館)入口訪ねたことがある。近くには、堀田辰雄記念館や古書館もある。さらに古物店や追分宿郷土館もあり確かに磁力が強い。旧軽井沢とは違う趣の観光や滞在ができる。